

つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり(3年次)

～子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけを通して～

家庭科における、つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業について

家庭科の教科目標には、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住等に関する実践的・体験的な活動を通して生活をよりよく工夫する資質・能力を育成すること」と記述されている。家庭科は、人間の基本的な営みが行われる家庭生活を主な学習対象としているので、家庭生活に関わりの深い人やもの、環境などとの関連を図りながら、食べることや着ること、住まうことを扱うことになる。そのような日常生活の中から児童が問題を見出して課題を設定し、実践的・体験的な活動を通して、様々な解決方法を友だちの意見を参考にしながら考え、表現し、自分の家庭や地域で実践できる力が必要となってくる。そこで、家庭科における「知的な深まり」とは、児童が生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、日常生活から課題を設定し、それを解決するために考えを深めていく姿だと考える。そしてそれを「楽しむ」ためには、やはり他者との「つながり」が必要である。自分や、自分の家庭の考え方が全てではなく、家庭や地域によって考え方や生活が異なることに気付いたとき、家庭科を学習する楽しさを感じられたり、自分の生活に広がりや生まれたりするのではないだろうか。そのために、児童同士の意見や考えがつながるための、また、児童が友だちの意見に良さを感じられるようにするための教師の働きかけが重要になってくる。以下に、そのような教師の働きかけについて述べる。

1. 子どもを「共通の土台」にのせるための働きかけ

○品物を選ぶ場面を具体的に設定する。

本時は、「品物の選び方を考えよう」という課題を設定し、実際に牛乳を選ぶ場面において様々な視点ごとの情報を整理しつつ、友だちの意見を取り入れながら、自分の大事にしたい品物選択の視点を明確にしていく時間である。そこで、牛乳を選ぶ場面設定を「家族と飲む牛乳を選ぶ」というものにした。日頃、児童が自分だけのために牛乳を買う機会は少ないと考えられるため、家族と飲むために選ぶことをイメージすれば、場面がより現実的で、全員が選びやすくなるのではないかと考えた。また、「おばあちゃんの骨を強くするために、カルシウムがたくさんある牛乳にしようかな。」「お母さんが添加物を気にしていたから、生乳100%の牛乳がいいかも。」「家ではクリームシチューをよく作るから、濃厚な物にしようかな。」等、選ぶ目的を持ちやすくなると考えた。

○実物を見せ、日常生活で実際に品物を選ぶ場面を想定しやすくする。

本時は、選ぶ品物として牛乳を設定している。これは、児童に取った事前アンケートの質問項目2「どんなものを今まで買ったことがありますか。」に対して、児童全員が食料品を含む回答をしていたことから、児童たちは日常生活でスーパーやコンビニエンスストア等に訪れ、食料品を選ぶ機会が沢山あると考えたからである。また、写真で用意するよりも、実物を用意して手で触れられるようにすることで、お店で選ぶのと同じように品物と関わることができ、児童も実生活を想起しながら意見を持つことができるだろう。さらに、本時では、普段余り見る機会の少ないと思われる食品表示まで観察する児童も出てくることが予想される。そういった、「表示には何が書いてあるのだろうか?」「パッケージはどんな違いがあるの

だろう?」「賞味期限ってどこにあるの?」等、様々な疑問が、実物を見ることで生まれやすくなると考えた。

2. 子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための働きかけ

○ネームカードで全員の意見を視覚化し、どの意見が気になるか児童に問いかける。

本時の学習活動は、まず自分の意見をじっくり考えた後に、ネームカードを用いて自分の意見を表示し、友だちと意見を交流し合った後、再度自分の意見を考えるという活動の流れになっている。友だちの意見を聞くことで、品物選択の視点がたくさんあることに気付かせたい。そこで、より友だちの意見に興味を持つことができるよう、ネームカードでそれぞれの意見が分かるようにした。これを見た児童は、「一番人気のある牛乳はAだ。なぜだろう?」「なんで自分の選んだ牛乳は人気が無いのだろう?」「自分と同じ牛乳を選んでいる人がいるけど、理由は同じかな?」等、自然に疑問が生まれ、友だちの意見が聞いてみたくなると思われる。さらに、そこで教師が「どの意見が気になる?」「なぜその意見が気になるの?」と児童に問いかけ、考えさせることで、より児童同士で意見交流をしたいという気持ちが高まると考えた。自分が思っていなかった意見を言った友だちに対して納得できたり、共感できたり、感心したりという姿を教師が見取り、評価することで、友だちと一緒に学習する良さを感じられるようにしたい。

○友だちの意見をメモし、自分の学びにする。

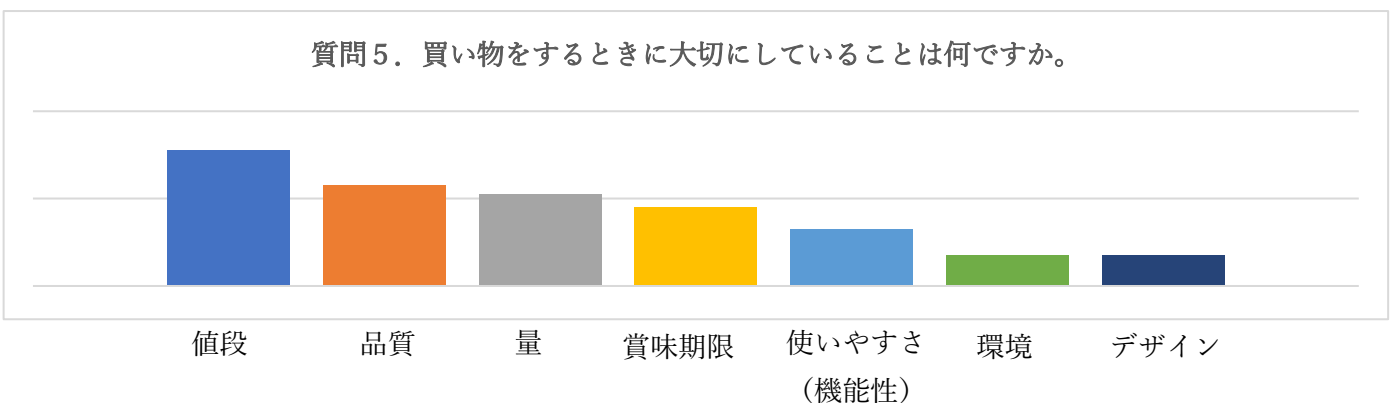
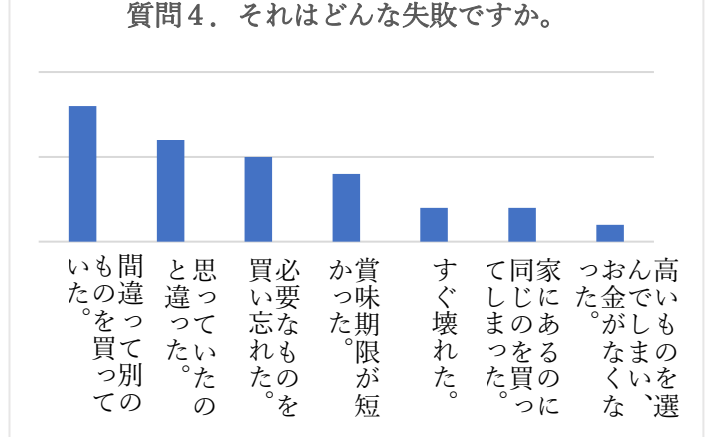
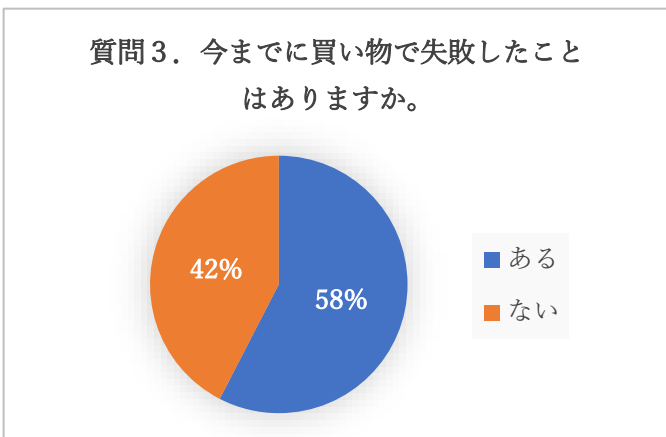
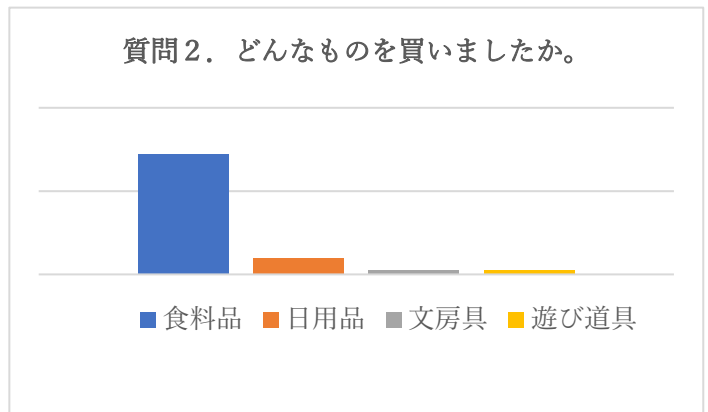
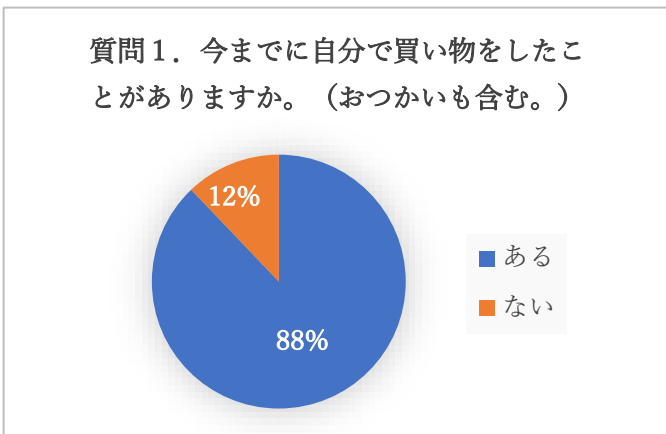
意見交流中に出た友だちの意見に良さを感じたら、消費者手帳にメモをするように伝える。特に、友だちの名前付きでメモができると尚良いとする。これは、良いと感じたことを忘れないようにするためと、自分の意見を再考する際の参考にするためである。また、授業の終わりには毎回家庭科日記という名の振り返りを書くようにしている。家庭科日記は①授業の気づき②友だちの良さ③自分の家庭を振り返っての3つの項目で構成されている。そこに、友だちと意見交流することの良さや、友だちから得た学びを自分のものにしようとする姿等、友だちの意見の良さが書かれているようにしていきたい。

1. 題材名 めざそう買い物名人

2. 指導観

本題材は、小学校学習指導要領〔C消費生活・環境の（1）「物や金銭の使い方と買い物」のア・イ〕の内容を主として受けている。消費生活の学習では、児童に消費者の一員であることの自覚や、物や金銭が有限であることへの理解を促すために、「物や金銭がどのように得られているのか」や「本当に買う必要があるのか」を踏まえたうえで「どのように買うのか」を考えさせる活動につなげることが大切である。また、児童が自ら思考・判断して購入するものを決める活動を重視する必要がある。題材構成としては、どのようなことにお金が使われているのか、計画的なお金や物の使い方、適切な品物の選び方、売買契約についてとレシートの必要性、最後に学習のまとめで構成されている。このように、家庭での金銭の具体的な使い方や児童自身の身近な購入体験を振り返ったうえで、学んだことを活用して買い物をする児童をめざすことのできる教材だと考えた。

本学級の児童に、買い物について事前にアンケート調査を行った。結果を以下に示す。



このアンケート結果から、本学級のほとんどの児童が自分で買い物をする経験をしており、そのうちの半分以上が買い物を失敗したことがある、と回答していることが分かる。失敗の内容としては、「間違っ
て別のものを買っていた」が最多であった。このことから、本学級の児童は、買い物をするときには「なん
のために買うのか」といった目的をきちんと持ち、選ぶ際には様々な情報を見比べ、目的に沿ったものを
間違いのないように買うことをまだ意識できていないと考えられる。また、買い物で大切にしていること
で一番多かったのは「値段」であった。確かに値段を意識することは、支出を増やしすぎないために必要
なことではあるが、品物選択における視点はそれだけではない。自分が何を大切にしたい品物を選びたい
か、友だちと関わり合いながら考える時間が必要である。そのため、本題材を通して、お金の使われ方や
物の使い方、失敗しないための品物の選び方など、生活する上で必要な力を身に付けさせたい。

本時は、「品物の選び方を考えよう」という課題を設定し、実際に牛乳を選ぶ場面において、様々な視点
ごとの情報を整理しつつ、友だちの意見を取り入れ、自分の大事にしたい品物選択の視点を明確にしてい
く時間である。そこで、家族と飲むための牛乳を選ぶ、という場面を設定する。選ぶ際には、実際に牛乳
パックを見せ、食品表示やパッケージの工夫からさまざまな情報を児童が得られるようにする。また、全
体に「4種類の牛乳の違いは何だろう？」と問いかけ、「値段」、「量」などの品物選択の視点をいくつか
児童から引き出して確認することで、視点ごとの情報を整理し、それを見比べて選ぶ必要があることに気付
かせる。牛乳を選んだ理由をワークシートに書かせることも必要である。全体で意見を交流する際には、
ネームプレートを用いて一人一つ意見を持っていることを表現できるようにする。また、どの意見が気にな
るか、それはなぜかを児童に問いかけることで、友だちの意見に興味を持ち、自分との違いに気づくこ
とができるようにする。また、良いと思った友だちの意見を消費者手帳にメモし、自分の意見を再考する
際に参考にできるようにする。また、FSC マークやその他のマークについて教師が紹介し、環境という視
点で品物を選ぶ大切さにも気付かせる。その後、友だちの意見を踏まえて自分の意見を再考し、発表す
る。その際には、意見を変えても変えなくても良いことを伝える。友だちの意見を聞くこと、話し合うこ
との良さを実感できる活動になることを期待する。最後に本時の学習を振り返って買い物名人第3条をつ
くり、家庭科日記を書く。家庭科日記は①授業の気づき②友だちの良さ③自分の家庭を振り返っての3つ
の項目で構成されている。項目ごとに具体的に振り返ることで、自分と違う友だちの意見の良さや、本時
の学びをこれからの自分の生活に生かそうとする記述が見られるのではないかと考えている。

3. 目標

- 買い物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方を理解する。
- 身近な物の選び方、買い方を理解するとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にでき
るようにする。
- 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫しようとする。
- 消費者として物や金銭を大切に、持続可能な社会の構築に向けた消費生活を考えようとする。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方を理解している。 ・身近な物の選び方、買い方を理解するとともに、購入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考えることについて、問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員として、生活をよりよくしようと、持続可能な社会の構築に向けた消費生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生

ために必要な情報の収集・整理が適切にできる。	現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	活を工夫し、実践しようとしている。
------------------------	--------------------------	-------------------

5. 指導計画（5時間扱い）

次	学習内容【時数】	評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
どのようなことにお金が使われているか考えよう	・どのようなことにお金が使われているか考える。【1時間】	○家庭の収支には限りがあり、支出とのバランスを考え、有効に使うことの大切さを理解している。（発言・消費者手帳・振り返り）		
お金や物の使い方について考えよう	・お金や物の使い方について考える。【1時間】		○今までの金銭や物の使い方に問題を見出し、課題を設定している。（発言・消費者手帳・振り返り）	
品物の選び方を考えよう	・品物の選び方を考える。【1時間】（本時）	○目的や品質を考えた物の選び方について理解するとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。（ワークシート）	◎身近な物の選び方について、既習事項や生活経験と関連付けて考え、工夫している。（消費者手帳・ワークシート・振り返り）	
契約について考えよう	・売買契約について知り、レシートの必要性について考える。【1時間】	○日頃行っている買い物が売買契約であることを理解している。（消費者手帳・振り返り）		◎レシートの役割に気づき、生活をよりよくしようと、その扱いについて工夫し実践しようとしている。（発言・振り返り）
買い物名人のまとめをしよう	・学習のまとめ（買い物名人5か条の完成）をする。【1時間】		◎消費者として物や金銭を大切に、身近な物の選び方、買い方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことをわか	○目的や品質を考えた物の選び方や、適切な買い方について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改

			りやすく表現している。(発言・ワークシート・消費者手帳・振り返り)	善しようとしている。(振り返り)
--	--	--	-----------------------------------	------------------

6. 本時の指導

(1) 小 題 材 品物の選び方を考えよう

(2) 目 標 ○購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方を既習事項や生活経験と関連付けて考え、工夫する。

(3) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○目的や品質を考えた物の選び方について理解するとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。(ワークシート)	◎身近な物の選び方について、既習事項や生活経験と関連付けて考え、工夫している。(発言・ワークシート)	

(4) 準 備 物 牛乳4種類(各班に1セットずつ)、ワークシート、掲示物

(5) 展 開

学習活動	教師の働きかけ
1. 本時の課題をつかむ。(3分)	○「家族と飲むための牛乳を選ぶ」という場面を設定することで、生活経験を想起して選ぶ牛乳をイメージしやすくする。
品物の選び方を考えよう。	
2. 自分ならどの牛乳を買うか、情報を整理して考える。(10分) 「安いのがいいかな。」 「乳製品って書いてあるよ。牛乳とは違うのかな？」 「家では牛乳をよく飲むから、たくさん入っている方がいいな。」 「パッケージがキャップ付きで便利だな。」 「このマークはなんだろう？」	○実際に4種類の牛乳パッケージを見せ、情報を得られるようにする。 ○最初に全体に「何を見て選ぶ？」と問いかけ、「値段」、「量」などの【品物を選ぶときの視点】をいくつか児童から引き出して確認することで、視点ごとの情報を整理し、見比べて選ぶ必要があることに気付かせる。 ○その牛乳を選んだ理由をワークシートに書かせることで、自分が大事にしている視点を自覚し、表現しやすくする。

3. クラス全体で意見を共有する。(16分)

【品物を選ぶときの視点(例)】

- ・ 値段
- ・ 種類(牛乳、乳飲料)
- ・ 量
- ・ 産地
- ・ 賞味期限
- ・ 栄養
- ・ 環境(リサイクルマークが全部ついている、FSCマーク・PEFCマーク有で環境にいい等)
- ・ パッケージ(キャップ付きで注ぎやすい、開封日がメモできる等)
- ・ その他(普段から飲み慣れている、味が好きだから等)

「〇〇さんは、なぜ値段が高い牛乳を選んだのかな？」

「安い牛乳が意外と人気がない。なぜだろう？」

「みんな飲み慣れた牛乳がいいのかな。」

「自分と同じ牛乳を選んだ人がいるけど、同じ理由なのかな？」

4. 友だちの意見を踏まえて、もう一度考える。(2分)

5. 全体で再共有する。(5分)

「色々意見を聞いたけど、やっぱり値段が一番大切だから、できるだけ安いものにしよう。」

「△△さんの意見を聞いて、栄養のことを考えて鉄分やカルシウムのとれる脂肪0の牛乳にしようと思った。」

○自分が選んだ牛乳の掲示物の下にネームカードを貼らせることで、一人が一つ確実に意見を持ったことを表現できるようにする。

○「どの意見が気になる？」と児童に問いかけ、「なぜ気になったの？」と理由も問うことで、友だちの意見に興味を持ち、自分との違いに気づくことができるようにする。また、良いと思った友だちの意見を赤色でワークシートにメモし、自分の意見を考え直す際に参考にできるようにする。

○児童がその牛乳を選んだ理由の中から、無意識に品物選択の視点としているものを板書し、全体で確認しながらワークシートに情報を追加する。

○FSCマーク・PEFCマークは、どちらも①適切に管理された森の生産品である証明であるということ、②消費者がこのマークがついた製品を選ぶことで、適切な森林管理を行う林業者や地域を支援することになり、環境を守ることにつながるということを教える。また、他にも品物には様々なマークがついていることを紹介する。

○再度どの牛乳を選ぶか考えることで、自分の中の品物選択の視点をより明確にする。もちろん、最初の意見から変わっても良いことを伝える。

○選ぶ牛乳が変わった人を指名し、理由を発表させる。また、選ぶ牛乳は始めと変わっていても、友だちの意見を聞いて、その牛乳を選ぶ理由が増えた人も発表してもらおう。

☒身近な物の選び方について、既習事項や生活経験と関連付けて考え、工夫している。(発言・ワークシート)

6. 学習を振り返り、買い物名人第3条を考える。

「品物を選ぶときは、色々な視点で見比べるべし。」

知目的や品質を考えた物の選び方について理解するとともに、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。(ワークシート)